

实践事例集



日時 令和2年10月21日(水)

第1学年 生活科 学習指導案

1 低学年分科会 目指す児童像

「人・自然・社会との関わりの中で町のすてきなところを見付け、楽しむことができる子」

2 単元名「レッツ・ゴー・あさかわ！」(全30時間)

3 単元の目標

- ・ 浅川の自然環境を活用して、遊ぶ物を作ったり遊んだりすることができる。
- ・ 浅川で遊んで気付いたことを「あさかわであそんできついたよカード」に表現することができる。
- ・ 浅川で遊ぶ活動を通して、四季の変化に気付き、季節に応じた遊びを楽しもうとする。

4 単元におけるE S Dの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
I 多様性 川には様々な生物が生息しており、季節によって違いがあること	4 コミュニケーションを行う力 発見したことや気付いたことを絵や文章にまとめて他者に伝える力
II 相互性 川にいる生物は、その周辺の環境と関わって生きていること	5 他者と協力する態度 仲間と協力して遊びを工夫・発展させようとする態度
V 連携性 地域の方々に協力してもらって自然の見方や遊び方を発展させること	6 つながりを尊重する態度 自分が地域社会や自然の一員であることの自覚をもとうとする態度

5 単元の評価規準

学習過程	評価規準		
	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【主】
めあてをつかむ	ア 浅川の河原にあるものや地形など、知っていることを紹介し合い、どんな遊びができるかを予想している。 (多様性・相互性) イ 浅川で安全に遊ぶための行動の仕方を理解している。	ア 浅川の河原で遊ぶことを通してどんな力が身に付くかを考えながら、どんな遊びをしたいかを決めている。 (計画を立てる力)	ア 浅川の河原でできる遊びをイメージして、必要な物を準備しようとしている。 (進んで参加する態度)
活動する	ウ 前回までに遊んだ経験や知識を生かしながら、楽しく遊んでいる。 エ 友達と協力したり競争したりしながら遊びを楽しんでいる。 (他者と協力する態度)	イ 浅川の河原の環境を生かしながら遊び方を工夫したり、新しい遊びを創り出したりしている。 (多様性) ウ みんなが楽しめるようなルールを考えたり教え合ったりしながら遊んでいる。 (他者と協力する態度) (コミュニケーションを行う力)	イ 浅川の環境を活用して遊ぼうとしている。 (多様性) ウ 友達と協力したり情報交換したりしながら、遊びを広げようとしている。 (他者と協力する態度) (コミュニケーションを行う力)
気付く	オ 既知の知識と新しい気付きを結び付けて、新しい知識を得ている。 (多面的、総合的に考える力)	エ 前の季節の遊びと比べながら、季節によって河原の様子が変化していることに気付いている。 (多面的、総合的に考える力) オ 友達と協力したり競争したりしながら遊んだからこそ楽しく遊べたことに気付いている。 (他者と協力する態度) カ 自分や友達の気付きの良さに気付いている。 (多様性) (多面的、総合的に考える力)	エ 自分や友達の気付きの良さを認めながら、遊びに生かそうとしている。 (多様性) (多面的、総合的に考える力)

表現・発信する		キ 「あさかわであそんできづいたよカード」に、自分が気付いたことはどのような価値があるのかを自覚しながら表現している。 ク 浅川での遊びの中で一番魅力のある遊びとその理由をカードに書き、発表している。	オ 一番価値があると思った気持ちを、「あさかわであそんできづいたよカード」の表現を通して、みんなに知らせようとしている。 (多様性)
行動する	キ 浅川の環境の問題点に気付いている。 (批判的に考える力)	ケ 楽しく遊ぶことができる浅川の環境を守るために、自分ができることを考えている。	カ 浅川の環境をよくするために考えたことに、進んで取り組もうとしている。 (進んで参加する態度)

6 単元について

小学校学習指導要領第5節生活の各学年の内容（5）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」と（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を基に単元を構成している。

本単元では、浅川の自然環境の中での遊びの体験活動を通して、自然の様子や四季の変化に気付かせたい。更に、気付いたことを「あさかわであそんできづいたよカード」にまとめ、友達に伝え合う活動を行い、友達と気付きを共有しながら浅川の自然と親しむ活動を経験することも大切にしたいと考える。

浅川で遊ぶことの価値としては、次のようなことが考えられる。

- ・ 季節によって自然の様子が変わること、遊びを通して実感することができる。
- ・ 浅川や河原の生き物と親しむことで、自然の不思議さや面白さを感じることができる。また、命を大切にしようとする心情を育むことができる。
- ・ 河原の地形や河原にある物を活用して、遊びを創造することができる。
- ・ 自分のやりたい遊びに没頭することができ、主体的な学びにつながる。
- ・ 友達と協力したり、競争したり、情報交換したりしながら、遊びのルールを工夫することができ、対話的な学びにつながる。
- ・ 友達と協力することで、一人ではできないダイナミックな遊びを経験することができ、より大きな達成感を味わうことができる。
- ・ 同じフィールドで繰り返し遊ぶことで、気付きの質が高まり、深い学びにつながる。

また、本単元は、他教科等との合科・関連を図る際の要になると考える。国語科の作文や詩の学習、図画工作科の絵や工作の学習、学習発表会でのオリジナルの歌の披露等、いろいろな活動と結び付けて展開することができる。

7 SDGsとの関連

〔関連目標⑪〕 【住み続けられるまちづくりを】

- ・自然災害による浅川の変化に気付き、浅川の環境保全に関心をもたせる活動は、ターゲット 11.6 につながっている。

〔関連目標⑮〕 【陸の豊かさを守ろう】

- ・本校の位置する日野市三沢地区は、程久保川と浅川を中心とした自然豊かな環境にある地域である。この自然豊かな環境の中で四季を感じて、季節に応じた遊びの体験を積み重ね、様々なことに気付かせていく活動は、ターゲット 15.5 につながっている。

8 他教科等との関連

E S Dカレンダー参照

9 児童の実態

本学級の児童は、全体としては学習に前向きに楽しく取り組むことができている。友達と協力しながら行動することができ、仲よく一緒に遊んだり、楽しくグループ活動を行ったりする姿が多く見られる。しかし一方で、集中して取り組むことが難しい場面が見られることがある。浅川での活動は子供同士が集中したり協力したりしながら取り組むことが必要な場面があり、落ち着いて安全に注意して行動することを学ぶためのよい機会となっている。

生活科の学習は、他の教科より楽しみにしている児童が多く、特に浅川で遊ぶ活動に関しては興味・関心が高い児童が多い。浅川で、体全体を使って遊んだり、遊びを創造したり、生き物や珍しい石やシーグラス等を夢中になって探したりしている姿から、教室では見られなかった児童の良さが見られることも多い。

本来なら4月より月に1度のペースで遊びに行く予定であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、9月から学習を開始することになった。

【1回目の活動 9月14日】

事前学習として浅川での遊びの例を写真で紹介したものを見ていたが、浅川の河原で遊ぶのは初めてということもあり、何をして遊ぶのかイメージが十分でない児童が多かった。最初の5分程は河原の様子を見ながら何をして遊ぼうかと迷っていた児童がほとんどであった。そのうち、石に興味をもつ児童、シーグラス探しを始める児童、水辺に行って魚やエビを見付けて捕まえようとする児童、落ちていた木材や棒を集める児童、川に向かって石投げ競争や水切りをする児童、粘土石を探す児童、バッタやカマキリを捕まえようとする児童、石橋を作り始める児童が増えてきて、思い思いに河原で遊び始めた。それぞれの児童がばらばらに遊んでいる状態だったが、後半になると一緒に遊ぶ姿が多くなり、協力したり競争したりする姿も見られた。しかし、一緒に活動する人数はせいぜい5～6人であり、まだ大人数で楽しむダイナミックな遊びは見られなかった。安全面での事前指導も行っていたこともあり、危険な遊びをしようとする児童は見られなかった。

【2回目の活動 10月15日】

〇〇遊びをしたいという思いをもっていた児童が前回より多く、そのための道具類を準備していた児童も多かった。遊び始めもスムーズで、目的の場所へすぐに移動する児童が多かった。シーグ

ラス・石・粘土石などに興味をもつ児童、小魚・エビ・アメンボなどの生き物を探す児童は前回同様に多かった。今回は、石を使ってオニグルミの実を割る遊びや水棲昆虫を見付ける遊び等、前回は見られなかった遊びも見られた。また、10人程の児童が協力して、河原に落ちていた丸太を利用して基地づくりをする姿も見られた。河原にある物を利用して、役割分担をしながらダイナミックな遊びが展開されたのは初めてであった。更に、前回とは違って、クラスの枠を超えて今まで遊んだことがほとんどない児童と一緒に遊ぶ姿も多く見られ、人間関係の広がりを感じた。

【気付きの質を高めるための指導の必要性】

浅川で遊んだ後の振り返りカードで、遊びを通して何に気付いたのかを絵と文章で表現した。振り返りカードの中の気付きの視点を説明したうえで書いたが、1回目の振り返りカードでは、「〇〇をしてあそびました。たのしかったです。」とだけしか書けない児童も少なからずいた。そこで、遊びを通して気付きの質を高めるための振り返りカードの有効活用を図るために、どんな気付きがいい気付きと言えるのかを考える活動をすることにした。(本時の学習)

また、9月中旬より秋を探す活動をしている。秋を感じる視点を広げるために、諸感覚を駆使して季節を感じる経験を積ませようと、常時活動として取り組んでいる。その中で、前の季節と比較し、何が変化したのかを意識させるようにしている。更に、おいしい、きれい、おもしろいなどと感じた秋を意図的に探させている。秋発見カードの気付きが、浅川で遊んで気付いたことを振り返るカードにも良い効果を与えることをねらっているが、児童の気付きの質が少しずつ高まっているように感じている。

10 研究主題に迫るための手だて

- (1) 課題を設定するための価値のある共通体験の充実・自分事になる問いのもたせ方
- (2) 協働的な学習につなげるための、外部人材や地域人材の活用
- (3) 情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用
- (4) 地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫

めあてをつかむ	【めあてをつかむための共通体験や学び】 (めあて) 浅川でどんなことをして遊びたいか、考えよう。 ①就学以前の先行体験 ・浅川で遊んだ体験の紹介。 ②浅川について知り、遊んでみたいことを考える。 ・浅川の写真を見て、浅川の様子について気付いたことを発表する。
活動する	【協働的な学習につなげるための、外部人材や地域人材の活用】 ①毎回の活動に、保護者の協力を要請する。 ・安全面の管理の補助として。 ・遊びの伝承者として。 ・困っている児童への支援者として。 ※サポートする人数が増えることで、友達と協力することで可能になるダイナミックな遊びを展開しやすい環境を作る。
気付く	【情報を整理・分析し、気付いたことの価値を自覚するための手だて】 ①「あさかわであそんできづいたよカード」で気付きの視点をはっきりさせる。 ・[気付きの視点]を常に意識させることで、気付きの価値を自覚できるようにする。 ①自然の様子 ②虫や魚・植物のこと ③自然の不思議さや面白さ ④遊びの工夫 ⑤新しい遊びの創造 ⑥自分や友達の良さ ⑦友達と協力したこと ②気付きを広げ、深めるための工夫 ・知的な気付きをより自覚できるように、カードの内容を友達同士で伝え合う。 ・次時の活動に向けての参考になるように、全員分のカードを教室内に掲示しておく。
表現・発信する	
行動する	【地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫】 ①地域環境の一つである浅川の河原が、素敵な遊び場であり続けるために、自分たちに何ができるか考える。 ・浅川で遊ぶ時に、問題点だと感じることを発表する。 ・問題点を解決するために自分たちができることを考える。 (例) 遊ぶ前に5分間、みんなでごみを拾う。

11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準（評価方法）
めあてをつかむ	1 ・ 2	浅川について知り、遊んでみたいことを考えることができる。 浅川で遊ぶ際の危険を知るとともに、安全に遊ぶための行動の仕方を考えることができる。	○浅川の写真を見て、浅川の様子について気付いたことを発表する。 ○浅川の写真や自分たちの経験を基に浅川で遊んでみたいことを発表する。 ○危険を防ぐためには何に気を付ければいいのかを考える。	◇浅川の河原にあるものや地形など、知っていることを紹介し合い、どんな遊びができるか予想している。【知ア】（発言） ◇浅川で安全に遊ぶための行動の仕方を理解している。【知イ】（発言） ◇浅川の河原で遊ぶことを通してどんな力が身に付くかを考えながら、どんな遊びをしたいかを決めている。【思ア】（発言・カードの内容） ◇浅川の河原でできる遊びをイメージして、必要な物を準備しようとしている。【主ア】
（秋） 活動する ・ 気付く	3 ～ 14 （本時9時間目）	秋（9～11月）の浅川で環境や自然を生かした遊びを楽しむことができる。	1か月に1度、浅川での活動を設定する。 遊びが2時間、表現が1時間の計3時間で1回分の活動とする。 ○秋の浅川で遊ぶ。 ・カマキリやバッタ等の虫を捕まえる。 ・水棲昆虫を探す。 ・小魚やエビを捕まえる。 ・粘土石を水で溶かす。 ・石投げをする。 ・オギやススキの穂を使って遊ぶ。 ・植物の実を服に付ける。 ・珍しい石を探す。 ・シーグラスを探す。 ・流木などを活用して遊ぶ。 ・石橋を作る。	◇前回までに遊んだ経験や知識を生かしながら、楽しく遊んでいる。【知ウ】（発言・行動観察） ◇友達と協力したり競争したりしながら遊びを楽しんでいる。【知エ】（発言・行動観察） ◇既知の知識と新しい気付きを結び付けて、新しい知識を得ている。【知オ】（発言・行動観察） ◇浅川の河原の環境を生かしながら遊び方を工夫したり、新しい遊びを創り出したりしている。【思イ】（発言・行動観察） ◇みんなが楽しめるようなルールを考えたり教え合ったりしながら遊んでいる。

表現・発信する	秋の浅川での遊びを通して気付いたことを、カードに表現することができる。 ★本時のねらい★ 遊んだ後に書いた「あさかわであそんできづいたよカード」の内容を見て、どのような気付きがいい気付きと言えるのか、考えることができる。	・石を積み上げる。 ・石で顔や動物を作る造形遊びをする。 ・秘密基地作りをする。 等 ○「あさかわであそんできづいたよカード」を書く。 ・一番価値があると思った気付きについて、カードに絵と文で表現する。 ★本時の活動★ ○カードを見て、その気付きのどこがいい気付きなのかを考える。	【思ウ】（発言・行動観察） ◇前の季節の遊びと比べながら、季節によって河原の様子が変化していることに気付いている。【思エ】（発言・行動観察） ◇友達と協力したり競争したりしながら遊んだからこそ楽しく遊べたことに気付いている。【思オ】（発言・行動観察） ◇浅川の環境を活用して遊ぼうとしている。【主イ】（行動観察） ◇友達と協力したり情報交換したりしながら、遊びを広げようとしている。【主ウ】（発言・行動観察） ◇自分や友達の気付きの良さを認めながら、遊びに生かそうとしている。【主エ】（発言・行動観察） ◇「あさかわであそんできづいたよカード」に、自分が気付いたことはどのような価値があるのかを自覚しながら表現している。【思キ】（カードの内容） ◇一番価値があると思った気付きを、「あさかわであそんできづいたよカード」の表現を通して、みんなに知らせようとしている。【主オ】（行動観察・カードの内容） ★本時の評価規準★ ◇自分や友達の気付きの良さに気付いている。 【思カ】（発言・行動観察）
---------	--	--	---

(冬) 活動する・気付く 表現・発信する	15 ～ 23	冬（12～2月）の浅川で環境や自然を生かした遊びを楽しむことができる。 冬の浅川での遊びを通して気付いたことを、カードに表現することができる。	○冬の浅川で遊ぶ。 ・小魚やエビを捕まえる。 ・粘土石を水で溶かす。 ・石投げをする。 ・秘密基地作りをする。 ・珍しい石を探す。 ・シーグラスを探す。 ・流木などを活用して遊ぶ。 ・石橋を作る。 ・石を積み上げる。 ・石で顔や動物を作る造形遊びをする。 ・霜柱を探す。 ・氷探しをする。 ・渡り鳥の観察をする。 等 ○「あさかわであそんできいたよカード」を書く。 ・一番価値があると思った気付きについて、カードに絵と文で表現する。	◇評価規準は、秋の遊びの「活動する・気付く」の評価規準と同じ。 ◇評価規準は、秋の遊びの「表現・発信する」の評価規準と同じ。
行動する	24 ～ 25 ・ 26	浅川の環境を守るために自分たちができることを考え、実践することができる。	○素敵な遊び場である浅川の環境を守るために、自分たちにできることを考える。 ・ゴミ拾いをする。 ・ポスターや新聞で浅川の素晴らしさを伝える。 等 ○浅川の環境を守るためにできることを、実際にやる。	◇浅川の環境の問題点に気付いている。【知カ】（発言・ワークシート） ◇楽しく遊ぶことができる浅川の環境を守るために、自分たちができることを考えている。【思ケ】（発言・ワークシート） ◇浅川の環境をよくするために考えたことに、進んで取り組もうとしている。 【主カ】（行動観察）
(初春)	27 ・ 28	初春（3月）の浅川で環境や自然を生かした遊びを楽しむことができる。	○初春の浅川で遊ぶ。 ・小魚やエビを捕まえる。 ・粘土石を水で溶かす。 ・石投げをする。 ・花を摘む。 ・珍しい石を探す。 ・シーグラスを探す。	◇評価規準は、秋の遊びの「活動する・気付く」の評価規準と同じ。

活動する・気付く 表現・発信する	29 ・ 30	浅川での活動を振り返って、一番魅力のある遊びをカードに表現することができる。	・流木などを活用して遊ぶ。 ・石橋を作る。 ・石を積み上げる。 ・石で顔や動物を作る造形遊びをする。 ・秘密基地作りをする。 等 ○浅川で遊んだ経験を基に、自分にとって一番魅力のある遊びを選んでカードに書く。 ○自分にとって一番魅力のある遊びとその理由を発表する。	◇浅川での遊びの中で一番魅力のある遊びとその理由をカードに書き、発表している。【思ク】(発表・カードの内容)
---------------------	---------------	--	---	--

12 本時の指導（9時／30 時間）

（1）本時の目標

- ・遊んだ後に書いた「あさかわであそんできづいたよカード」の内容を見て、どのような気付きがいい気付きと言えるのか、考えることができる。

（2）展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点・配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導 入	○活動の目的を確認する。 ・「あさかわであそんできづいたよカード」の内容を見て、どんな価値があるあるのかを考える。	◆児童の興味を引くために、浅川で遊んで気付いたことを書いたカードの例を1枚提示し、カードに書かれている情報を読み取らせる。
	どのようなきづきが いいきづきか、カードを見て かんがえよう。	
展 開	○気付きの視点を確認する。 ・自然の様子（季節による変化の様子） ・自然の不思議さや面白さ ・遊びの工夫（新しいルール、材料の工夫、遊びのこつ 等） ・新しい遊びの創造 ・友達と協力したからできた遊び ・虫や魚、植物のこと（生き物） ・自分や友達の良さ ○プレゼンテーションソフトで提示されたカードを見て、その気付きのどこがいい気付きなのかを考える。（ペアでの活動）	◆気付きの視点は、教師と児童が共通の物差しで活動を振り返るために必要な視点である。この視点は、支援する際の教師側の視点であると同時に、カードを書く際の児童の側の視点としても意識させる。 ◆指名された児童がホワイトボードに掲示した気付きの視点到に印を付ける際に、他の児童は自分の予想と同じ場合、丸印の付

	・ホワイトボードに掲示した気付きの7点の視点に、印を付ける。 ・どの表現がいい気付きなのか、発表する。 (提示するカードの例) ・アメンボを見て気付いたこと ・クヌギの実を見付けたこと ・石投げをしたこと ・きれいな石や面白い石を見付けたこと ・石の橋を作ったこと 等 (多様性) (多面的、総合的に考える力) ○丸太遊びの写真を見て、どのような気付きや価値を読み取ることができるか考え、発表する。 ・一つの活動が、たくさんの価値をもっていることに気付く。	いた札を上げて意思表示する。 ◆まずは絵を見てどんな気付きをしたのか推測する。その後に文章も提示し、推測が当たっていたかを確認めるようにする。 ◆カードの内容の気付きの良さをなかなか認識できない児童には、ヒントとして色、模様、数、触り心地、感想等の部分がキーワードになることをアドバイスする。 ◇自分や友達の気付きの良さに気付いている。 【思力】(発言・行動観察) ◆河原の丸太を利用した遊びの写真を提示し、複数の気付きや価値ある行動を含んでいることを読み取らせ、次回以降の活動の意欲につなげる。
まとめ	○次の浅川での活動後に「あさかわであそんできづいたよカード」を書くときに、どのような気付きを表現すればよいか、再確認する。 ・7視点を基に、自覚した気付きを書くときよい。 ・「比べる」「変わる」「試す」「感じる」等の視点から気付いたことを書くときよい。	◆遊んで楽しかったことを書くのではなく、7視点を基にしながら、更に「比較」「変化」「試行錯誤」「感動」等の内容を加えて表現すると、質的に高い振り返りカードになることを、再確認する。 ◆児童が書いた秋発見カードの例を提示し、考えるヒントとする。

13 本時における想定される児童の姿と支援

	想定される児童の姿	支援
A	・自分や友達の気付きの良さについて、理由を明確にしたうえで気付いている。	・絵と文章を結び付け、更に明確な理由とするとよりよいことを助言する。
B	・自分や友達の気付きの良さに気付いている。	・どの部分の表現がよい気付きなのか、理由を明確にしながらかえるとよいことを助言する。
C	・自分や友達の気付きの良さに、漠然と気付いている。	・色、模様、数、感想等の部分に注目して考えるといいことを助言する。

14 学習過程における指導の工夫と児童の変容

(1) めあてをつかむ

○入学前に浅川で遊んだ経験を出し合い、どんな遊びができるかという情報を共有することによって、遊びへの期待感を高めていった。また、浅川の河原の写真や、前年度、前々年度の1年生の活動の様子を写真で紹介することで、どんな遊びができるのか、どんな物を準備すればよいか、安全面で気を付けることは何か等のめあてをつかむことができた。

(2) 活動する

○浅川の河原では、自分がやりたい遊びで楽しむことを原則とした。決められた遊びではなく、自分が選択した遊びで楽しむことができたようにした。初めて浅川の河原に遊びに行った児童は、何をして遊べばよいか分からず、何となく時間を過ごしがちであった。しかし、繰り返して何度か遊びに行くうちに、河原の環境を生かした多様な遊びを楽しむことができるようになってきた。河原にある石、水の流れ、植物、魚や昆虫、シーグラスなど、遊びに活用できる素材に着目し、自分がやりたい遊びに没頭する姿が見られた。



○一人だけの遊びもよし、大人数での遊びもよしとしたことで、自分のやりたい遊びに夢中になる児童もいれば、友達と協力しながらダイナミックな遊びを楽しむ児童もいた。石橋を作っていた2～3人の児童の遊びが、人数が徐々に増えていき、最終的には15人程の共同プロジェクトに発展することもあり、教室内では味わうことができない満足感や達成感をもつことにつながった。



○遊びを通して、生き物の命を大切にしたいと願い、行動に移す児童も見られた。河原の中ほどに出現した教室2個分ほどの水たまりは、雨が降らない日が続いたことで、もう少しで干上がりそうになった。池には小魚や小エビが繁殖していたが、水が無くなりそうになったことで、水が無くなる前に魚やエビを助けたいという願いをもち、魚やエビを水槽に移し、本流近くの水たまりに放流した。命の大切さを感じた自分の良さや協力した友達の良さにも気付くことができた。



○最初は単純な遊び方であったが、回を重ねるごとに遊び方の工夫が見られるようになった。例えば、ただ石を川に向かって投げただけだったのに、遠



くへ投げる、目標物を決めて当てる等、競争しながら遊びのルールを工夫するようになった。また、水切りを始めた児童は、投げ方、石の大きさや形、水面の波の有無等にも着目し、遊びのこつを友達同士で情報交換したことで、石が跳ねる回数の記録を更新する楽しさを味わうことができた。



(3) 気付く

○最初のうちは、「遊ぶことが楽しい」、「〇〇を見付けた」という単純な気付きが多かった。また、価値のある気付きであっても、無意識につぶやくだけでその価値を自覚できていない状態の児童が多かった。活動の途中で、前回の気付きと比べる、友達の気付きと比べる、試してみながら気付く、既知の知識と結び付けて考える等の助言をすることで、回数を重ねるうちに質的に高い気付きが多くなってきた。

(4) 表現する・まとめる

○毎回の活動後「あさかわであそんできづいたよカード」による振り返りを行った。遊びを通して何に気付いたかを表現するためのカードであるが、最初のうちは「〇〇遊びをして楽しかった。」としか書けない児童も少なからずいた。カードの中に気付きの視点を例示しておいたことで、回を重ねるうちに質的に高い気付きや工夫したことを表現することができるようになってきた。



(5) 行動する

○浅川の河原で遊ぶ活動を繰り返すうちに、児童は、浅川は楽しく遊ぶことができる魅力的な場所だと強く意識するようになった。楽しく遊ぶことができる大切なフィールドで、これからも楽しく遊び続けることができるように、自分たちにできることはないだろうかと話合った結果、遊んだ後にゴミ拾いをしたり、河原を汚さないように呼び掛けるポスターを作ったりすることになり、実行した。



15 今後の課題

- ・四季を通して定期的に浅川で遊ぶ活動を計画していたが、夏の熱中症の危険がある時期や、秋の台風シーズンには実施できないこともあった。自然の諸条件によって活動が制限されることがあるので、遊ぶ時期については柔軟性を持たせて計画する必要がある。
- ・生活科だけで完結する学習ではなく、国語科や図画工作科、学習発表会などと合科や関連を図りながら、より効果的な活動ができるようにE S Dカレンダーを見直す必要がある。



日時 令和2年9月25日（金）

第2学年 生活科 学習指導案

1 低学年分科会 目指す児童像

「人・自然・社会とのつながりの中で町のすてきなところを見付け、楽しむことができる子」

2 単元名 「つながろう！まちのすてきたんけんたい」（全34時間）

3 単元の目標

- ・町の人々と交流することで自分の町について興味をもち、積極的に地域と関わるができる。
- ・町探検を通して発見したことや思ったことなどを工夫して表現することができる。
- ・自分たちが発見した町のすてきなところや地域の人たちの願いをまとめ、保護者、地域、1年生に伝えることができる。
- ・すてきな町が続いていくために、もっとすてきな町にするために、自分たちにできることを考え実行することができる。

4 単元におけるE S Dの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
Ⅱ 相互性 町の人々の暮らしは、人や物が互いに 関わり合っていること。 V 連携性 持続可能な社会は、町に住む人々や町 で働く人が状況や相互関係などに応じ て順応・調和し、お互いに連携・協力 することにより構築されること。	4 コミュニケーションを行う力 ・町探検を通して調べたことや自分の考えを伝える力 ・地域で働く人に対してインタビューし、働く上での工夫や気持ちに共感しようとする態度 ・他者の気持ちや考えを尊重しながら、積極的にコミュニケーションを行う力 5 他者と協力する態度 ・地域で働く人の立場に立ち、他者の考えや立場に共感しようとする態度 ・町探検で分かったことや考えたことを発表するために、友達と協力したり協働したりしてものごとを進めようとする態度 6 つながりを尊重する態度 ・町探検を通して、人・もの・こと・社会・自然等と自分とのつながり・関わりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度 7 進んで参加する態度 ・グループの中で自分の役割を理解して主体的に話し合いに参加する態度

5 単元の評価規準

学習過程	評価規準		
	知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【主】
課題設定	ア 自分の家の周辺や通学路の途中にある町のすてきなところを紹介している。 (相互性)	ア 町の人にインタビューしたことをTチャートを使って分類し、まとめている。 (他者と協力する態度)	ア 話し合い活動やゲストティーチャーの話を聞いて、もっと町のすてきを知ろうとしている。 (進んで参加する態度) イ 1回目の町探検を振り返り、もっと詳しく知りたいと思う店や場所を決めている。
情報収集	イ 1回目の町探検を通して、町には様々な自然やお店・施設があり、様々な人々が働いていることに気付いている。 (連携性) ウ 探検計画に沿って、インタビューをし、情報を収集している。	イ 2回目の町探検を通して、各お店や施設は、様々な工夫をしていることに気付いている。 (つながりを尊重する態度) ウ 地域の人々が様々な思いをもって働いていることで、私たちの生活が支えられていることに気付いている。 (コミュニケーションを行う力)	ウ 町の秘密や、子ども一人一人にとってのすてきな場所を発表することによって、期待をもって町探検の準備をし、探検に参加している。 (進んで参加する態度) エ 町で働いている人に関心をもち、町の人にインタビューしようとしている。 (コミュニケーションを行う力) オ 自分の聞きたいことについて、町の人にインタビューすることができる。 (コミュニケーションを行う力)
整理分析	エ 町の良さは自然や場所だけでなく、町に関わる人たちによって決まると気付いている。 (連携性) オ 町探検を通して地域の自然や公共施設、働いている人々の存在を知り、それらは自分たちの生活と深く関わっていることに気付いている。 (相互性)	エ 1回目の町探検を振り返り、発見したことや気付いたことを表現している。 (コミュニケーションを行う力) オ 板書で気付いたことを「人・自然・場所」に分類することにより、視覚的に分類を捉えながら、関係性やつながりを考えている。 (つながりを尊重する態度)	カ 町探検で気付いたことを発表し合い、町のよさには、町に関わる人たちの思いもあることを考えようとしている。 (つながりを尊重する態度) キ 地域の自然や公共施設、働いている人の存在が自分たちの生活とつながっていることを考えようとしている。 (つながりを尊重する態度)

		カ 町探検で気付いたことをグループ内で交流し、どんなことを発表会で伝えるのかを話し合っている。 (コミュニケーションを行う力)	
表現・発信	カ 発表をしたり、聞いたりする活動を通して、働く人の思いや店・場所の良さに気付いている。(連携性) キ インタビューを通して、自分のたちの生活に関わっていることに気付いている。 (連携性)	キ 探検して見付けたことや、町で働く人の思い、町の良さなどを表現し、分かりやすくまとめている。 (他者と協力する態度) ク 探検で見付けたことや町で働く人の思い、町のよさ、自分たちの思いなどを、分かりやすく発表している。 (コミュニケーションを行う力)	ク 発表する人に応じて、発表の仕方を工夫している。 (コミュニケーションを行う力) ケ 町の人の思いや町の良さを感じながら発表を聞くことができる。(他者と協力する態度)
行動する	ク 町のすてきを増やすために自分ができることに気付いている。(連携性)	ケ 町のすてきを増やすための計画を分かりやすく計画表にまとめている。	コ 町のすてきを増やすために、自分は何ができるかを考え、行動に移そうとしている。(進んで参加する態度)

6 単元について

(1) 単元観

生活科では、よき生活者としての資質や能力及び態度の育成を重視している。これは子供たちが実社会や実生活と直接関わる活動の中でこそ実現できる。そのような側面から考えると、町探検という活動は、まさに実生活や実社会と直接子供たちがかかわる活動であり、生活科にとっても重要な単元の一つであると言える。

学習指導要領の生活、内容(3)「地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。」や、内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。」を基に単元を構成している。

本単元では、自分たちが住む町を、友達と協力して調べたり、探検したりする活動を通して地域の人、自然、身近なお店や施設とつながりを持ち、自分たちの町には多様な人々が生活していること、様々な仕事に携わっている人々がいるということ、自分たちの生活は町の自然や人々や様々な

場所と関わっていることなどに気付かせたい。そして分かったことや気付いたことを紙芝居や新聞、劇などにまとめ、1年生や町の人への発表会を開き、自分の発見したことや町のよいところを紹介する活動を通して、自分たちの町のよさに気づき、もっとすてきな町にするために自分たちにできることを考え実行していくことが本単元のねらいである。

(2) 教材観

本単元では、実際に町に出て町の様子を調べたりお店や施設などでのインタビューを行ったりしていく。営業時間中のお店もあるため、マナーを考えさせてからインタビューに取り組んでいく。インタビューの項目の内容を考える際、場所の基本情報・働く人の思い・コロナに関することをバランスよく決めることができるようにTチャートを活用する。また、全グループの質問の最後には「この町のすてきだなと思うところ」を聞くことで、より親しみをもつことができると考える。町に出て取り組む活動は、3年生の社会科の学習につながっていくと考える。

7 SDGsとの関連

〔関連目標⑪〕 【住み続けられるまちづくりを】

- ・町探検を通して多様な人々が生活していることを知ることは、ターゲット 11.1 につながっている。
- ・町のすてきな所を見付け、更にすてきなところを増やすにはどうしたらいいか考え、行動することは、ターゲット 11.7 につながっている。

〔関連目標⑰〕 【パートナーシップで目標を達成しよう】

- ・町で働く人と交流し、お互いの思いを伝え合いながら町のすてきなところを増やす方法を共に考えることは、ターゲット 17.17 につながっている。

8 他教科等との関連

E S Dカレンダー参照

9 児童の実態

本学年の児童は、1年生のときに生活科の学習で浅川の河原をフィールドにして繰り返し遊ぶ体験を通して身近な環境である浅川の魅力に気づき、多くの児童がお気に入りの場所として浅川を挙げた。また、週末日記に浅川で遊んだことを書いてくる児童もたくさんおり、浅川での体験が実生活に結び付いている。更に、地域にある公園で遊んだり、近隣の3箇所の幼稚園・保育園の園児と交流をしたりすることで、地域への愛着も高まった。

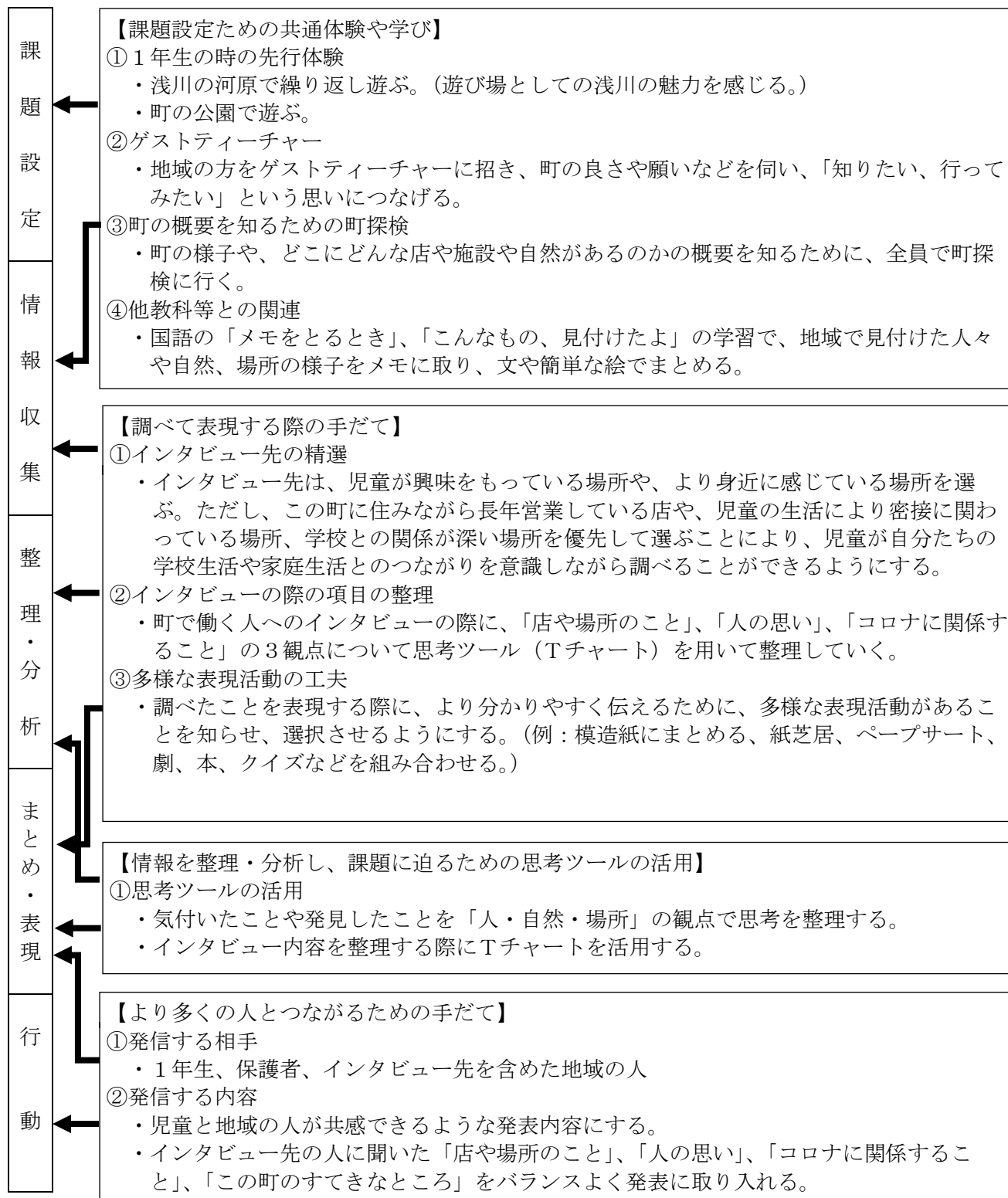
町探検に関しては、1年生の時に2年生から町探検の発表会に招かれ、地域の施設やお店でインタビューしたことをまとめた発表を聞いた。仕事の内容、仕事上の工夫や苦勞、見学して感じたこと、地域の人の思い等についての発表を聞くとともに、発表の仕方や発表資料の効果的な使い方についても学ぶことができた。

2年生になり、自分たちも町探検に行くことを楽しみにしていた児童が多くいた。学習が始まる前から「自分はお店に行きたい」とか「去年は発表の中に入っていなかったけれど、あそこの店にも行けるかなあ」と、学習に参加したいという意欲が高い児童も多かった。実際に学習が始まると、「よく知っている場所をもっとよく知りたい」、「あまり知らないから詳しく調べてみたい」等、自分の意志でインタビュー先を決めたり、知りたいと思うことをいくつも考えたりする児童が多かった。

10 研究主題に迫るための手だて

(1) 課題を設定するための共通体験の充実

(2) 情報を整理・分析し、問題を解決するための思考ツールの活用



11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準（評価方法）
課題設定①	わたしの町 1・2・3	- 町の人々の様子や自然、場所を紹介し合い、自分たちの住む町に関心に向けることができる。 - ゲストティーチャーの話や自分の好きな場所を紹介し合う中で、自分たちの住む町に関心に向け、友達が紹介した場所に行ってみたいという意欲を高めることができる。	○町の人々の様子や自然、場所を紹介し合い、「町のすてきなところ」を考える。 ○ゲストティーチャーの方の話や友達との話し合いの中から、行きたい場所を出し合う。 (学習のめあて) 町のすてきを見付けよう	◇自分の家の周辺や通学路の途中にある町のすてきなところを紹介している。【知ア】（行動・発言） ◇話し合い活動やゲストティーチャーの話を聞いて、もっと町のすてきを知りたいと意欲を表している。【主ア】（発言・カード）
	町たんけん 1 4・5・6・7・8・9	1回目の町探検に行く準備をすることができる。 1回目の町探検に行き、町の人々の様子や自然、すてきな場所を発見したり、関心をもったりすることができる。 1回目の町探検を通して、気付いたことや発見した場所を絵や文でまとめることができる。	○1回目の探検のコースを知ったり、どんな視点で探検をするかを話し合ったりして、準備をする。 ○友だちと一緒に1回目の町探検に行き、地域の自然・人々や町の様子などを見て回る。 ○発見したこと、体験したこと、考えたことなどを、絵や文などで表現する。	◇町の秘密や、子ども一人一人にとってのすてきな場所を発表することによって、期待をもって町探検の準備をし、探検に参加している。【主ウ】（行動・発言） ◇1回目の町探検を振り返り、発見したことや気付いたことを表現している。【思エ】（カード・発言） ◇1回目の町探検を通して、町には様々な自然や施設があり、様々な人々が働いていることに気付いている。【知イ】（カード・発言）

整理・分析①	10	・ 1 回目の町探検を通して気付いたことを「人・自然・場所」に分類しながらまとめることができる。	○ 1 回目の町探検で気付いたことを発表し合い、「人・自然・場所」に分類しながら、町のよさを実感する。	◇町の良さは自然や場所だけでなく、町に関わる人たちによって決まると気付いている。【知エ】 (発言・カード) ◇板書で気付いたことを「人・自然・場所」に分類することにより、視覚的に分類を捉えながら、関係性やつながりを考えている。【思オ】 (発言・観察) ◇町探検で気付いたことを発表し合い、町のよさには、町に関わる人たちの思いもあることを考えようとしている。【主カ】 (発言・ワークシート)
課題設定②	11 ・ 12 ・ 13 ・ 14	・ 1 回目の町探検で興味や関心をもったことを振り返り、2 回目の探検に行く場所を決めることができる。 ・ 調べたい内容を整理し、町の人々にインタビューしに行く準備をすることができる。	○ 1 回目の町探検を振り返り、自分が一番興味をもったお店や施設を、調べる対象として決める。 ○ 調べたい内容を T チャートに整理し、町の人にインタビューしに行く準備をする。	◇ 1 回目の町探検を振り返り、もっと詳しく知りたいと思う店や場所を決めている。【主イ】 (アンケート) ◇ 町の人にインタビューしたいことを T チャートを使って分類し、まとめている。【思ア】 (観察・カード・話し合い)

情報収集②	町 た ん け ん 2 15 ・ 16 ・ 17 ・ 18	・ 2 回目の町探検に行き、町の人々に直接インタビューする活動を通して、町の人々の営みの様子に気付くことができる。	○ 2 回目の町探検に行き、町の人々に直接インタビューする活動を通して、町の人々の営みの様子に気付く。	◇町で働いている人に関心を持ち、町の人にインタビューしようとしている。【主エ】 (行動・発言・インタビューカード) ◇自分の聞きたいことについて、町の人にインタビューすることができる。【主オ】(行動・発言・インタビューカード)
整理・分析②	19 ・ 20	・ 2 回目の町探検で分かったことや気付いたことを整理し、発表内容をまとめることができる。	○ 2 回目の探検で分かったことや気付いたことを発表し合い、伝えたいことをまとめる。 ⇒ 〈町のすてき〉 働く人の工夫、お店の特徴、働く人の思い、この町の良さ、自分たちの思い	◇町探検を通して地域の自然や公共施設、働いている人々の存在を知り、それらは自分の生活と深く関わっていることに気付いている。【知オ】 (行動・発言・インタビューカード) ◇町探検で気付いたことをグループ内で交流し、どんなことを発表会で伝えるのかを話し合っている。【思カ】(発言・観察) ◇地域の自然や公共施設、働いている人の存在が自分の生活とつながっていることを考えようとしている。【主キ】 (発言・ワークシート)

表現する・発信する	町のしよかい	・2回目の探検を通して発見したことや思ったことなどを、工夫して表現することができる。	○伝える方法を考え、伝えたい対象に分かりやすい表現の仕方を工夫する。 ○すてきな町が続くように、町のすてきが増えるように、自分が町で活動したいことや生活の中で実践したいことを考える。	◇探検して見付けたことや、町で働く人の思い、町の良さなどを、表現し、分かりやすくまとめている。【思キ】 (作品・行動・発言) ◇発表をしたり、聞いたりする活動を通して、働く人の思いや店・場所の良さに気付いている。
	20	・町の発表会を開き、自分の発見したことや町の	○新型コロナウイルスにより大変であった店や町を元気付けられるようにまとめる。	【知カ】 (行動・インタビューカード)
	21	・良いところを紹介することができる。	○招待状や手紙を出し、町の発表会の準備をする。	◇インタビューを通して、自分のたちの生活に関わっていることに気付いている。【知キ】 (行動・発言・カード)
	22	・町の人々と交流することを通して、自分の町について愛着を高めることができる。	○発表練習をする。	◇探検で見付けたことや町で働く人の思い、町の良さ、自分たちの思いなどを、分かりやすく発表している。【思ク】 (作品・行動・発言)
	23		○調べたことや思ったことを発表する。	◇発表する人に応じて、発表の仕方を工夫している。【主ク】 (発言・発表)
	24		⇒1年生に	◇町の人々の思いや町の良さを感じながら発表を聞くことができる。
	25		⇒保護者や町の人に	【主ケ】(行動・カード)
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			

行動する	行動しよう 33 ・ 34	・町のすてきが増えるように、自分たちができるところを考えて、実行することができる。	○すてきな町が続くように、町のすてきが増えるように、考えたことを実行する計画を立て、実行する。	◇町のすてきを増やすために自分ができることに気付いている。【知ク】 (作品・行動・発言) ◇町のすてきを増やすための計画を分かりやすく計画表にまとめている。 【思ケ】(作品) ◇町のすてきな所を増やすために、自分は何ができるかを考え、行動に移そうとしている。【主コ】 (作品・行動・発言)

12 本時の指導 (13 時/34 時間)

(1) 本時の目標

- ・2回目の町探検で知りたいことを、思考ツール(Tチャート)を活用して分類し、インタビュー内容を決めることができる。

(2) 展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準 (評価方法)
導入	○町探検をする場所・めあての確認をする。 マロニエ・モグモグ・とことこ・ 村松電器・百草園交番・百草図書館・ 業務スーパー・百草食品・ 落川交流センター	◆自分が知りたいと思ったことを同じグループの人と発表し合い、インタビューすることを決める活動を行うことを知る。
	知りたいことをなか間分けして、インタビューすることをきめよう。	
展開	○グループごとに、知りたいことを一人ずつ発表し、3点に分類していく。 ・付箋に記入した知りたいことについて発表し、ホワイトボードに貼っていく。 (コミュニケーションを行う力) 店・場所のこと ・1日何人来るか。 ・どの年齢の人が多いか。 人の思い ・大変なことや楽しいことは何か。	◆「店・場所のこと」、「人の思い」、「コロナ関係」に仲間分けしやすいように色分けをしておく。 ◆知りたい理由がある場合は理由も言いながら発表させる。 ◆一つの内容を発表したら次の人へと順番に発表させていく。 ◆発表していく中で同じ内容や似ている内容は付箋を重ねるように指示する。 ◆早く終わったグループは仲間分けの見直しをすることを伝える。

	・どうなってほしいと思うか。 コロナかんけい ・コロナでお客さんは減ったか。 ・コロナで休んでいるときどうだったか。 ○付箋がまとまったホワイトボードを見て、知りたいことを話し合い、インタビューする順番を決める。 (他者と協力する態度) ○インタビューしたいことをグループごとに発表する。 ・私たちのグループは〇〇へ行きます。 インタビューしたいことの1番目は～です。	◆順番を決めたらインタビューしたい順番に別紙に貼っていくようにさせる。 ◆3点の仲間からバランスよく選ぶこと、その場所を知らない人が知りたいと思うことを考えて選ばせる。 ◇仲間分けしたものを基にインタビューしたい内容を話し合いをしながら決めている。 (ワークシート) ◆順番を決めた中から5番目までを発表させる。 ◆発表を聞いて、追加したいことがあれば後で追加できることを伝える。 ◆発表しやすくするために、発表の話型を提示する。
まとめ	○振り返りを行う。 ・グループで話し合いを行い、よくできたこと・くふうしたこと・たいへんだったことをワークシートに記入する。	◆授業のねらいに沿った振り返りと気付いたことが記入できるようにする。

13 本時における想定される児童の姿と支援

	想定される児童の姿	支援
A	Tチャートを使って、似ているものや同じものをまとめつつ仲間分けしている。 仲間分けしたものを基に、理由付けしながらインタビューの順番を決めている。	発表をしていく中で、同じ内容のものは重ねて貼るように声掛けする。 どの順番で聞いたらよいか、話し合いながら順番を決めるように声掛けする。
B	Tチャートを活用して仲間わけすることができ。 仲間わけしたものを基にインタビューの順番を決めている。	発表の仕方や付箋の貼り方について、プレゼンテーションソフトを使って示しておく。 お店や施設のことを、知らない人に紹介するために必要な情報は何かを考えながら、順番を決めさせる。
C	インタビューしたいことを発表している。 インタビューの順番を考えている。	付箋をどこに貼ったらよいかを示す。 友達の意見を聞きながら、順番を考えるように声掛けする。

14 学習過程における指導の工夫と児童の変容

(1) 課題設定（共通体験や学び）

まず地域のよさをよく知っている人の話を聞くことで、自分たちの生活は地域の様々な人や場所と関わっていることが分かり、「知りたい。」「行ってみたい。」という思いをもつことができる考えた。そこで共通体験として、地域の民生委員でもあり、学校の図書室の協力員でもある方に、地域のよさやすてきなところについて話をしていただいた。話を聞く中で、知らなかった場所のことは「行ってみたい。」「話を聞いてみたい。」知っている場所でも「気付かなかったことがある。」「もっと知りたい。」という意欲的な意見をもった児童が多くいた。そして「もっと町のすてきなところを見付けたい。」という強い気持ちをもつことができた。



【ゲストティーチャーの話（第2時）】

(2) 情報の収集

- 自分たちの住む町のすてきを知るために1回目の町探検を方面を変えて2回行った。1回目の町探検に行くことで、町の人々の様子や自然、すてきな場所を発見したり、関心をもったりすることができた。更に、気付いたことや発見した場所を絵や文でまとめた探検カードを使って紹介し合う活動を通して、自分たちの町には様々な自然や施設があり、様々な人々が働いていることに気付くことができた。
- 2回目の町探検では、1回目の町探検で興味や関心をもったお店や施設の人にグループで直接インタビューする活動を行った。直接インタビューを行うことでお店や施設で働く人々の営みの様子や思いに気付くことができた。更に、インタビューで聞いた内容をグループの中で共有することで、自分たちの住む地域への関心や興味を深めることができた。



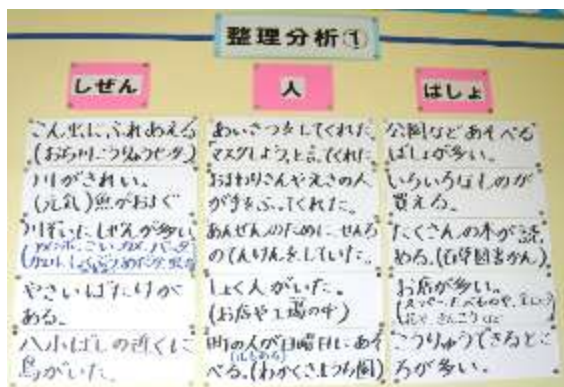
【町たんけん①（第5, 6時）】



【町たんけん②（第16, 17時）】

(3) 整理・分析

- 1回目の町探検後には、町探検で発見した町のすてきを「人・自然・場所」の3観点に分類した。1年生の時の学習から自然についての発見は多く、「川の水がきれいでたくさんの草花が咲いている。」「虫や花が多い。」などのことが挙げられた。人と場所については「知らないお店が多いのもっと知りたい。」「どんなことができる場所か調べたい。」などの考えをもち、2回目の町探検へとつなげることができた。
- 2回目の町探検に向けて、インタビューしたいことについて話し合いを行った。その際、「店や場所のこと・人の思い・コロナに関係すること」の3観点について思考ツール（Tチャート）を用いて整理し、インタビュー内容が店・場所の基本情報など一つの方に偏っていかないようにした。Tチャートを活用したことで、知りたいことを整理しやすく、インタビュー内容をバランスよく決めることができた。



【1回目の町探検で見つけた町のすてき】



【Tチャートを活用した授業（第13時）】

(4) まとめ・表現

1年生や保護者、地域の人たちに発信する内容が「店や場所のこと・人の思い・コロナに関係すること」の3観点でバランスよく配置されるようにした。調べたことを表現する際には、模造紙にまとめたり、紙芝居にしたりする方法に加え、ペープサート、劇、クイズなどの表現方法も組み合わせることにより、より分かりやすく伝えられるように工夫していた。

(5) 行動

12月に1年生に向けて「町のすてき」を発表した。また、インタビュー先で聞いた「この町のすてきなところ」と2年生の児童自身が感じている「この町のすてきなところ」を発表内容に取り入れるなど、地域の人と共感できるような発表内容とした。



【町のすてきの発表準備（第29時）】



【町のすてき発表会（第33時）】

15 今後の課題

- ・学習過程の課題設定の場面で児童の「町のすてきを知りたい」という意欲を高めるため、より多くのゲストティーチャーに話を聞いたり、保護者の方に聞き取りを行ったり、児童自身が調査活動を行ったりする活動を取り入れることが望ましい。
- ・課題設定の際に、それぞれの児童が「知りたい」、「どうなっているんだろう」という思いで自分ごととして学習をスタートさせるために、1回目の町探検の際にも、学級単位ではなく、より少人数での活動で町を見てまわった方が望ましい。
- ・SDGsと学習の関連を児童に理解させることが不十分だったことから、SDGs 11番（住み続けられるまちづくりを）や17番（パートナーシップで目標を達成しよう）の意味を、単元の目標や学年の実態に合わせた表現で児童に示す必要があった。



日時 令和2年9月9日（水）

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

1 中学年分科会 目指す児童像

(1) 日野第八小学校

「人・自然・社会とのつながりの中で自ら課題を見付け、解決できる子」

(2) 中学年分科会

「人・自然・社会とのつながりの中で課題を見付け、自分なりに解決しようとする子」

2 単元名 「八小のまわりの生き物を調べよう」（全17時間）

3 単元の目標

- ・八小のまわりの生き物を探して飼育したり、資料で調べたりする活動を通して、多様な生き物が身近に生息していることや、その維持、保全には様々な人が関わっていることを理解するとともに、こうした理解が探究活動の成果であることに気付くことができる。また、適切に資料を選んだり、調査したりし、整理しながらまとめる技能を身に付けることができる。

（知識・技能）

- ・課題に沿って調べる中で、持続可能性という視点から身近な生き物がどうして豊かなのか、またそれらはどう保全されているのかを考え、それらを維持するために必要なことについて自分なりの行動計画を決定することができる。（思考・判断・表現）
- ・課題に沿い、見通しをもって調べるとともに、自分自身も地域の一員として生き物や自然の保全に対してできることを考え、行動しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

4 単元におけるE S Dの視点

持続可能な社会づくりの構成概念	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
I 多様性 生き物が生息できるのは、自然環境や人々の関わりなど様々な要因が関係していることを理解すること II 相互性 人々によって環境は良くも悪くもなり、生き物が生息できる環境にするために人々が大きく関わっていることを理解すること V 責任性 地域の自然環境を保全していくために、自分自身も地域の一員として責任を果たそうと考えること	3 多面的・総合的に考える力 生き物が生息していること、環境が豊かであることと人々の環境保全に向けた取組を関連付け、地域の自然環境について総合的に考える力 4 コミュニケーションを行う力 調査活動や整理、分析する活動などにおいて他者と考えを交流させたり、教え合ったりすることで、積極的にコミュニケーションをとりながら、課題解決に向かう力 6 つながりを尊重する態度 自然環境と人々の生活や取組は密接に関わり合っていることを自覚し、自分自身の問題として生き物の保全について考えようとする態度

5 評価規準

学習過程	評 価 規 準		
	知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【学】
課題設定	ア 日野市にはたくさんの生き物が生息しており、生き物が住みやすい環境にあることを理解している。(多様性) イ 日野市の生き物や自然環境が保持されているのは人々によるものであることを理解している。(相互性)	ア 身近な生き物がどんな特徴があるかに関心を持ち、自分で課題を設定している。 イ 学習の見通しをもちながら自分なりに学習計画を立てている。(計画を立てる力)	ア 日野市に生息する生き物や東京レッドリストの生き物、自然環境の保全活動に関心を持ち、自分で課題を設定して、探究活動に進んで取り組もうとしている。(進んで参加する態度)
情報収集	ウ 身近な生き物の特徴や環境保全について手段や文献を選択しながら、調査活動を適切に実施している。(多様性)	ウ 課題の解決に必要な情報を、飼う、図鑑、文献など手段を選択して収集し、友達と協力しながら情報を蓄積している。(コミュニケーションを行う力)	イ 進んで調査活動に取り組んでいる。(進んで参加する態度)

整理・分析	エ 地域における身近な生き物の生息地の分布と生き物の種類の大まかな様子を理解している。(多様性) オ 多様な生き物について、それらがさまざまな取組によって保全されていることを理解している。(相互性)	エ 思考ツール「地域マップ」を活用して、視覚的に分布と量を捉えながら、関係性やつながりを捉えている。(多面的、総合的に考える力) オ 生息する生き物と人々の取組を関連付けてその相互関係を話し合い、地図に表している。(多面的、総合的に考える力)	ウ 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合っている。(コミュニケーションを行う力)
まとめ・表現	カ 地域の生物環境は、人々の生活や取組と関係があるという理解が、探究的な学習の成果であることに気付いている。(相互性)	カ 思考ツール「座標軸」を活用して、持続可能性などを考慮し、自分たちでできることを考えている。(多面的、総合的に考える力)	エ 人々の取組と生き物が密接に関わり合っていることに気づき、自分自身とのつながりを考えようとしている。(つながりを尊重する態度)
行動・検証	キ 自分なりに地域や生物環境のためにできることを考えて行動する大切さに気付いている。(責任性)	キ 自分たちの行動計画を持続可能性と簡易性から検証している。(批判的に考える力) (多面的、総合的に考える力)	オ 自分の課題を解決するために、進んで考え、行動しようとしている。(つながりを尊重する態度) (進んで参加する態度)

6 単元について

(1) 単元観

本単元では、目指す児童像にあるように、地域の人々と自然環境、そして地域という社会とのつながりに気づき、自身も地域の自然環境に関わろうとすることで、SDGsの11、15、17の目標と関連させて、持続可能な自然環境を目指すための資質・能力の基礎の育成を目指していく。

第3学年の第1単元であり、課題解決的な学習の経験が少ないことから、課題解決の流れを知り、自分で調べることの経験、友達と話し合いながら解決に向かうという学習活動の経験を蓄積していくきっかけとしたい。社会科、理科の学習と関連付けながら、学校のまわりの地形的特徴など地理的意識の芽生え、昆虫などの生き物の生態や生息に関する興味関心を初めての総合的な学習の時間に活かしていきたい。

単元の前半は、児童の生活経験とつなぎ合わせて身近にいる生き物調べを行う。どんな生き物がいてどのような生態か、どんな場所に棲み、どのような餌を食べるのかを調べていく。それらを大きな地域マップにまとめ、地域環境(川、林、公園など)と生き物の生息との関係に視覚的に気付かせる。

豊かな生物環境があることが分かったところで、過去には川の汚染やごみの放置など地域環境が悪かったことを知る。今の環境があることは自然の流れではなく、誰か(人々)の手によるものであるのではないかと、という仮説を見だし、2点目の課題「どうやって生き物の棲む環境を保っているのだろうか」を設定する。人々の取組や努力によって豊かな生物環境が保たれているこ

とを調べていくことで、自然、生き物、人々をつなぎ合わせていくことをねらう。人に視点を移したところで、最後に自分はどうした生物環境にどう関わっていくか、行動計画を立てることとする。3年生の最初の単元であるので、行動の内容の検証までは求めず、行動計画の検討に重点を置く。

単元を通して、主体的に学習に取り組む態度を育成するため、見通しと振り返りを意識させる。学習ファイルに振り返りの欄を設け、毎時間の学習を観点に沿って振り返り、次回は何をするかを考えさせることにした。こうした学びの自己調整をこの段階から少しずつ意識させ、育てていきたい。

SDGsの11、15を題材にすることで、身近な地域の様子が自然環境保全とつながっているという視点をもつことができるとともに、そうした環境問題は人々の取組が欠かせないという理解を期待している。そして、3年生の学習のスタートとして、課題解決学習の流れやスキルを身に付けさせたいと考える。

(2) 教材観

学校のまわりには、浅川、程久保川、多摩川が流れ、用水も多い。また、学校の南側には多摩丘陵があり、里山と呼ばれる環境も存在する。更に、草木の多い公園や自然園もあるなど、自然環境は豊かであると言える。しかし、約50年前には、高度経済成長の中増加していった工場から出る工場排水や川沿いに立てられていった住宅地から出る生活排水がそのまま川に流れ出て、川の環境は激変した。多摩川の水質汚染の深刻さはNHKforSchoolのクリップ「水が汚れてしまった多摩川」でもよく分かる。

学習を進める中で、今の生物環境が昔からあったわけではなく、人為的に改善されてきたことに気付かせていきたい。例えば、日野市の緑と清流課及び環境保全課やカワセミハウスなどにおける環境保全事業や自然環境の学習事業などを知ること、その人々の努力によって改善されたことに気付かせたい。その中で、自然とは人々とのつながりによって大いに影響されるという「相互性」の概念を獲得し、また、これからの地域環境の保持、発展のために自らが関わる必要であるという「責任性」の概念にも触れていきたい。

単元の最後には、現在およびこれからの地域環境に対して、自分にできることを考えさせる。生き物を大切にする、生き物が棲む自然を大切にする、人のネガティブな影響を減らす努力をする、などについて、①持続可能性(続けていけるか)、②簡易性(すぐできるか)の観点で、行動計画案を検討し、行動につなげていく。単元を通して、「地域や自然は自分とつながり合っていること」に気付かせ、「持続可能性」という価値を理解できるようにさせたいと考える。

7 SDGsとの関連

〔関連目標⑪〕 【住み続けられるまちづくりを】

- ・地域の生物及び生物環境を調べ、地域住民の環境保全への取組を基に、自らの地域を将来にわたりよりよいものにしようと考え、行動につなげていこうとすることはターゲット11.3、11.6につながっている。

〔関連目標⑮〕 【陸の豊かさも守ろう】

- ・生き物が生きるためには、水環境や森林や土壌等の陸上環境が関係していることに気付く、地域の環境を守る意識を高めていくことはターゲット2.1につながっている。

〔関連目標⑰〕 【パートナーシップで目標を達成しよう】

- ・地域住民や自然保全団体など、様々な立場の人々が関わり合って地域の自然環境を守る取組をしていることに気付き、自分も地域とつながっていく必要性を考えることはターゲット3.2につながっている。

8 他教科等との関連

E S Dカレンダー参照

9 児童の実態

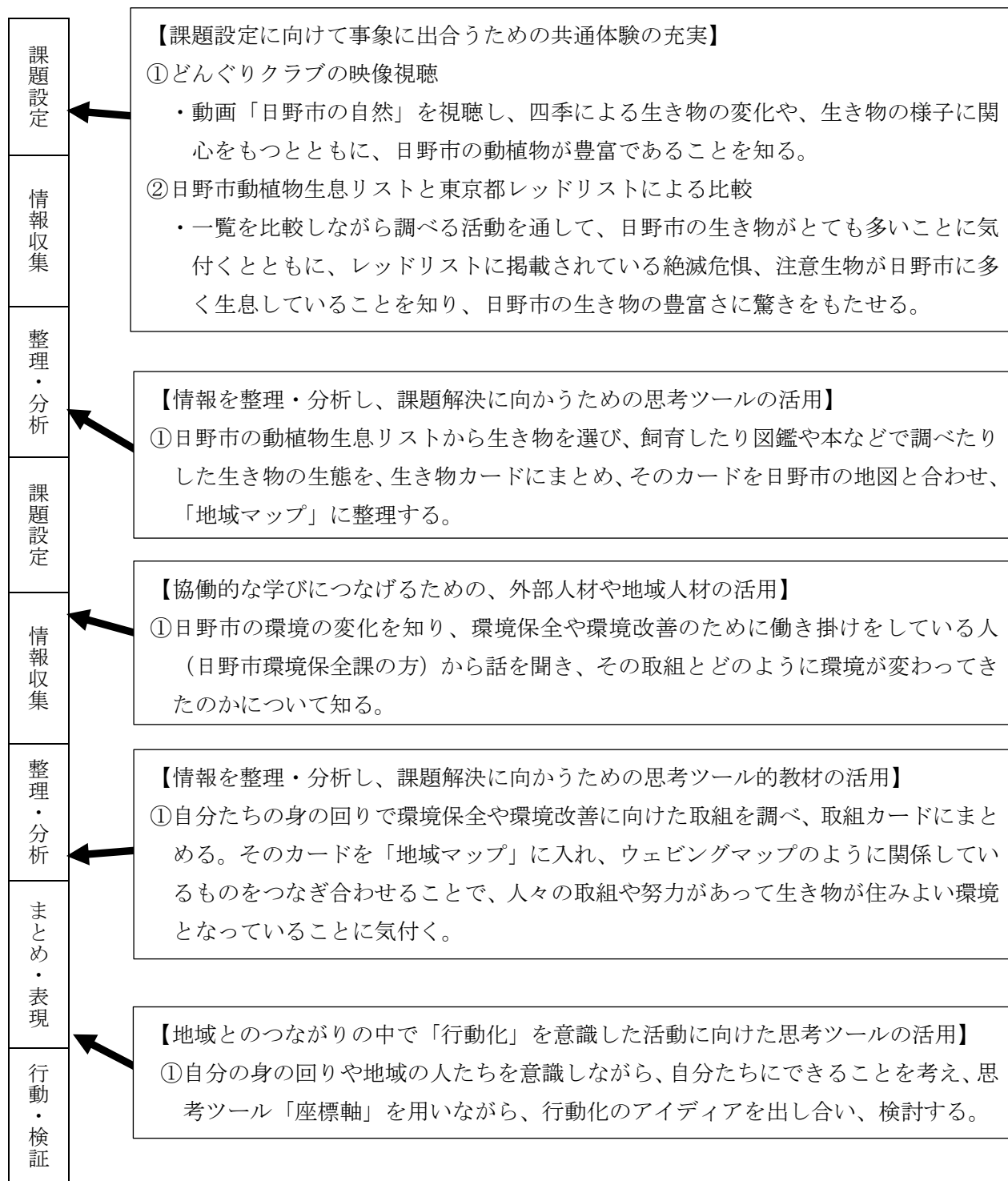
本学級の児童は、小学校入学後初めてのクラス替えがあり、今年度から3学級となって児童数が増えるなど、友達関係を含め環境の変化が多い学年であるが、3か月の間に、児童同士は概ね関係を築くことができている。3年生になり、社会や理科など新しい教科において課題解決的な学びを進めているが、子供たちは課題解決的な学びの経験は少ない。そのため、算数科や社会科、理科を通して課題に対して自分の考え（予想）を文章や図などを用いてノートに書いたり、発表したりする経験を積んでいる状況である。また、新型コロナウイルス感染症蔓延の状況下で対話的な学びを十分に行えていないため、自分の考えを友達に伝える経験の積み重ねが少ない。そのため、自分の考えを整理して相手に伝えることや、友達とのやり取りを通して自分の考えを深めていくといった学習経験を十分にできていない。1学期を通して、社会科や理科の学習を通して、「学校のまわりの様子」や「日野市の様子」から八小の周りや日野市の特徴、「昆虫の育ち方」から地域の環境や生き物について理解を深めてきた。1点の課題に対して自分で対象を決めて、自分で資料を探して調べ学習を進めていくことは初めてであるが、本単元では、日野市の地形的な特徴とそこに棲む生き物の生態、環境と生き物をつなぐ人々の働きや工夫に目を向けさせていきたい。

持続可能な社会づくりの構成概念について、「多様性」、「相互性」、「責任性」の3点について本単元を通して考えさせていきたい。3年生の児童にとって、自分を取り巻く中には様々な物や事が多様であり、多様な立場が存在することを何度も経験的に理解することが必要であると考え。また、そうした周りの事象は人が関わっており、その輪の中に自分もいることを実感させたい。3年生の今、感じるができなくてもいいが、今後大人になった時に担うのは自分であるという将来的な責任を感じることができるようにもなってほしい。

話し合いや分析の際のスキルとして、「多面的・総合的に考える力」を少しずつ身に付けさせたい。また「つながりを尊重する態度」を身に付けることで今後、他教科等においても社会的事象を見ると、自然環境について見るときの視点となるだろう。そして、その土台としての最も重要な「コミュニケーションを行う力」の育成に努めたい。ただ関わり合うだけでなく、他者と共に考えることのよさや他者と関わることで新たな気付きや学びにつながることを感じさせ、積極的に自分の考えを相手に表現したり相手の考えを受け止めたりする力を育みたい。

10 研究主題に迫るための手だて

- (1) 課題を設定するための価値のある共通体験の充実・自分事になる問いのもたせ方
- (2) 協働的な学習につなげるための、外部人材や地域人材の活用
- (3) 情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用
- (4) 地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動の工夫



11 単元の指導・評価計画

	時	ねらい	○主な学習内容、学習活動	◇評価規準（評価方法）
課題設定	1	・通学路や身近な地域で見かけた生き物を出し合い、地域に生息する生き物に関心をもつことができる。	○身近にいる生き物を発表し合い、種類ごとに整理して日野市にたくさん生き物がいることを実感する。	◇日野市に生息する生き物に関心をもち、自分で課題を設定して、探究活動に進んで取り組もうとしている。 【主ア】（発言・ワークシート）
	2	・日野市の生き物生息資料等から日野市には希少な生き物が多くいることを理解することができる。	○レッドリストの資料等を活用し、日野市に生息する生き物が多いこと、希少な生き物が多いことについて調べる。	◇日野市には多くの生き物が生息しており、生き物が住みやすい環境にあることを理解している。【知ア】（発言・ワークシート）
	3	・どうしてたくさんの生き物がいるか課題をもち、そのために生き物を調べる計画を立てることができる。	○どんぐりクラブの動画を観る。どうして生き物が多いのか課題を設定する。 ○生き物を具体的に調べる計画を立てる。	◇身近な生き物がどんな特徴があるかに関心をもち、課題を設定し学習計画を考えている。【思ア・イ】（ワークシート）
日野市にたくさんの生き物が生そくしているのはなぜだろう				
情報収集	4 5 6 7	・自分で選んだ生き物の生態について調べることができる。	○図鑑、本、飼育など方法や資料を選び、自分で選んだ生き物を調べる。 ○生き物は一つと限らず、複数種類を調べてもよいことにする。	◇身近な生き物の特徴について手段や文献を選択しながら、調査活動を適切に実施し、情報を収集している。 【知ウ】【思ウ】 （観察・ワークシート） ◇進んで調査活動に取り組んでいる。【主イ】 （観察・ワークシート）
整理・分析	8 9 10	・調べたことをカードにまとめるとともに、地域マップに表して、つながりを考えることができる。	○生息地や餌、特徴をカードに簡潔にまとめる。 ○学級1枚の大きな地図に、見付けた場所ごとにカードを貼り、生息地を表した地域マップを作成する。 ○住处の似ている生き物同士や捕食被食の関係などを線でつなぎ、つながりを考える。	◇地域における身近な生き物の生息地の分布と生き物の種類の大まかな様子を理解している。【知エ】 （発言・ワークシート） ◇思考ツール「地域マップ」を活用して、視覚的に分布と量を捉えながら、関係性やつながりを捉えている。 【思エ】（発言・観察・ワークシート）

課題設定	11	昔の自然環境の様子と比較し、新たな課題を設定することができる。	○生活排水で汚れた多摩川の様子などを見て、豊かな生物環境が昔は一時なかったことを知り、課題を作る。	◇日野市の生き物や自然環境が保持されているのは人々によるものであることを理解している。
		生き物がすみやすくなるために人はどんなことをしているのだろう		【知イ】（発言・ワークシート）
情報収集	12	外部講師の話を聞き、地域の自然環境保全に取り組む人々があり、多くの取組をしていることを理解できる。	○日野市環境保全課の人から日野市の自然環境保全の取組について話を聞くとともに、質問をする。	◇身近な地域の環境保全について、調査活動を適切に実施している。
整理・分析	13 14	人々の取組をカードにまとめ、地域マップに表すことができる。	○人々の取組をカードにまとめ、前半で作成した地域マップに貼る。	◇生息する生き物と人々の取組を関連付けてその相互関係を話し合い、地図に表している。【思オ】【主ウ】（発言・観察・ワークシート）
		地域マップの中で、生き物と人々の取組をつなぎ合わせ、関係を考えることができる。	○取組と自然、生き物とのつながりを話し合い、マップ内のカードをつなぐ。 ○生き物の生息には人々の取組が関わっていることを確かめる。	◇地域の生き物が様々な取組によって保全されていることを理解している。【知オ】（発言・ワークシート）
まとめ・表現	15 16 本時	人々の取組を参考に自分の行動計画案を考えることができる。	○地域の取組を参考に、自分なら何ができるかを考え個人で行動計画案を作る。	◇人々の取組と生き物が密接に関わり合っていることに気づき、自分自身とのつながりを考えようとしている。【主エ】（ワークシート）
		自分の行動計画案を紹介し合い、友達の行動計画案を検討し、計画をよりよくすることができる。	○前時に作った行動計画案を班で紹介し合い、思考ツール「座標軸」に当てはめながら2観点で評価し合う。更に良くなるようアドバイスをする。 ○アドバイスを基に、行動計画を修正する。	◇思考ツール「座標軸」を活用し、友達の行動計画案を持続可能性と簡易性の2観点から検討している。
行動・検証	17	行動計画に沿って行動をし、その経過、結果を交流することができる。	○行動した結果や、思ったことなどを班で交流し合う。 ○単元全体を振り返り、課題解決的な学習の成果を話し合う。	◇自分なりに地域や生物環境のためにできることを考えて行動する大切さとこれらが探究的な学習の成果であることに気付いている。
				【知カ】【知キ】【主オ】（発言・ワークシート）

12 本時の指導（16 時/17 時間）

（1）本時の目標

- ・行動計画案について 2 観点から検討し合い、それらを基に自分の行動計画案をよりよくすることができる。

（2）本時の展開

時	○主な学習内容 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点、配慮事項 ◇評価規準（評価方法）
導 入	○前時までの学習を振り返る。 ○本時のめあてを知る。	◆今までの学習の流れを提示する。
	友だちと話し合って、「八小のまわりの生き物まもり隊」の行動計画案 ^{あん} をよりよくしよう。	
展 開	○活動内容を知り、教師が書いた行動計画案が「座標軸」のどの位置にあたるか考える。 ・新聞を作るのは時間がかかると思う。 ・毎日、新聞を作ることは続けられないと思う。 ・八小の周りの家に配るのは大変だから、続けるのは難しいと思う。 ○作った行動計画案カードを班の「座標軸」のプリントに当てはめる。 ○教師の行動計画案を「かんたん」、「ずっと続けていける」の場所に近付けるためのアドバイスを考え発表する。 ・新聞ではなくて、ポスターを作る。 ・新聞を毎日作るのではなくて、一週間に一度にしたら続けられると思う。 ・学校の中に新聞を貼ることだったら、すぐにできと思う。 ○友達の行動計画案について、「かんたん」、「ずっと続けていける」の 2 観点を基に、アドバイスをし合う。	◆拡大した「座標軸」を掲示し、「かんたん」「たいへん」「ずっと続けていける」「一回で終わってしまうこと」の位置関係をおさえる。 ◆教師の行動計画案「自然を守ろう新聞を毎日作って、八小の周りの家に配る。」を提示する。 ◆ホワイトボードと「座標軸」を各班に配布し、そこに考えた行動計画案カードをマグネットで貼る。 ◆「行動計画案カードを隣の人に渡す。」ことを伝え、自分ではなく他者にあてはめてもらうようにする。 ◆行動計画案を否定するのではなく、2 観点から、教師の行動計画案についてのアドバイスをすることをおさえる。 ◆一人 3 分と時間を設定し、全員がアドバイスをもらえるようにする。その後、メモを取る時間を 1 分間設定する。 ◆話し合いの様子を見て、必要に応じて、アドバイスをする観点を再度おさえる。（個別への声掛け、全体への説明） ◇思考ツール「座標軸」を活用し、友達の行動計画案を持続可能性と簡易性の 2 観点から検討している。【思カ・キ】（観察・発言・ワークシート）
ま と め	○友達からのアドバイスを聞いて、ワークシートに自分の行動計画案を持続可能なものに修正する。 ○振り返りを書く。	

13 本時における想定される児童の姿と支援

①形成的評価（授業を観る視点と連動）

	想定される児童の姿	支援
A	思考ツール「座標軸」を活用して、友達の行動計画案を持続可能性と簡易性の2観点を関連付けながら意見を述べている。	友達の意見について、関連付けながら解釈し、更によりいいアイデアになるようアドバイスをさせる。
B	- 思考ツール「座標軸」を活用して、友達の行動計画案を持続可能性と簡易性の2観点を1点ずつ着目して意見を述べている。 - また、友達の意見を聞き、観点に沿った意見を理解して納得している。	1点の観点を改善させたらもう1点の観点はどうか変わるか、考えさせ、連動しているかどうかを確かめさせる。 - 周りの友達の関連付けながら考えた意見を取り上げ、真似しながら考えてみるよう声掛けをする。
C	友達の行動計画案を持続可能性と簡易性の2観点到触れずに意見を述べている。または、観点に沿った意見を聞いて納得できていない。	- 個別に教師の例示を指し示して、2観点についてもう一度説明をする。 - 納得できない（理解できない）意見について友達にもう一度説明してほしいことということを伝えさせる。

②総括的評価（授業後に評価）

	想定される児童の姿	支援
A	話し合いを基に自分の行動計画案を、取組やすく持続可能なものになるよう、具体的によりよく直している。	- 自分が明日から何をどのように進めていくかが分かるような改善案にするよう声掛けをする。 - 話し合いにおいて机間指導をしながら、2観点を関連付けながら具体的に述べている意見を取り上げ、評価していく。
B	話し合いを基に自分の行動計画案を、取組やすく持続可能なものとして直している。	- すぐに取りかけられるように、また続けていけるように具体的に日時や、回数などを入れ込むようにさせる。 - 話し合いの意見の出し方として具体的なアドバイスの内容をはじめに示しておく。
C	自分の行動計画案を、観点に沿って改善できていない。	- 座標軸で自分の行動計画案が右上に少しでも移動できるように、意見やアイデアをもらうようにさせる。 - 具体的な案となるよう、友達に聞きながら文章化させるようにする。 - 班での話し合いの前に、教師の例示した計画案で実際に2観点に沿った改善を練習する。

14 学習過程における指導の工夫と児童の変容

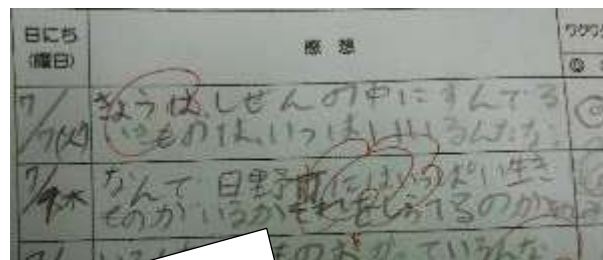
(1) 課題設定【課題設定に向けて事象に出合うための共通体験の充実】

どんぐりクラブの映像視聴を通して、児童の経験を振り返るとともに、今まで知らなかった貴重な生き物や動物の存在を知り、日野市の自然について興味を高めることができた。

その活動ののちに、東京都レッドリストと日野市動植物生息リストを比較しながら読み取り、東京都には希少な生き物がいるだけでなく、それらのうち日野市にも多くの希少生物が生息していることを知った。日野市は自然豊かで、自分が知らない生き物もたくさんいることを知り、それらを調べたいという意欲が大いに高まっていった。

そして、なぜ日野市にはこれほど希少な生き物を含めてたくさんの生き物が生息しているのかという疑問が自然と挙がり、学習課題の設定へとつなげることができた。

東京レッドリスト				
※東京にすむ野生の生き物で、数が減ってきてぜつめつしてしまっているもの。				
鳥のなかま	動物のなかま	虫のなかま	魚のなかま	水辺の動物のなかま
アオシギ	アカネズミ	アカハネバタ	アブラハヤ	アオダイショウ
アオバト	アズマモグラ	ウスイロオナガシジメ	ウナギ	アハライモリ
アカゲラ	カヤネズミ	コシエンマムシ	カマツカ	ナツグニ
アメリカヒトリ	カワネズミ	オオクワガタ	ギンブナ	シマヘビ
ウグイス	ウキナワグマ	カワフグムシ	シマドジョウ	ジムグリ
ウスツ	タンゴコウモリ	カワフスズ	ササゴ	ツチガエル
オオタカ	ニホンザル	カワババシ	ホトケドジョウ	マキコウサシユウウオ



【児童の振り返り】

○どうして、日野市にはたくさん生き物がいるのか調べることが楽しみです。

(2) 整理・分析【情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの活用】

生き物を調べた生き物カードを、①見付けた場所と②えさに焦点化してまとめることで、地図上に表したときに、自然環境と生き物、そしてそのえさを関連付けて考えることができた。特に、大きな地図「地域マップ」にまとめたことで、全体を俯瞰して見ることができ、川の近くに生息する鳥などは、魚を主食とすることから、川の自然が豊かであるから鳥が生息しているのだ、などと考えを深めることができた。



(3) 情報収集【協働的な学びにつなげるための、外部人材や地域人材の活用】

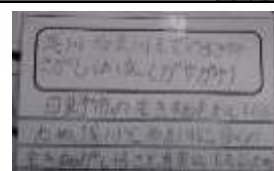
環境を守る、環境を改善させるために誰が何をしているのか、想像もできない児童が多い中で、日野市環境保全課の方の話を聞き、自然保全の仕方や考え方、取組やイベントなど具体的に知ることができた。これらは、次時以降の自分にできること、という行動化への大きな指針となった。

また、大人だけでなく子どもたちにも頑張ってもらいたいという話によって解決意欲が更に高まるなどの声を聞くことの効果を感じることができた。

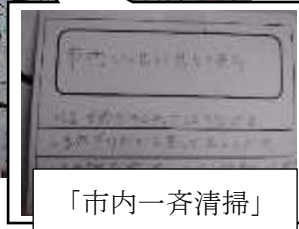


(4) 整理・分析【情報を整理・分析し、課題解決に向かうための思考ツールの教材の活用】

自分たちの身の回りで環境保全や環境改善に向けた取組を調べ、取組カードにまとめた。それらを「地域マップ」に入れることで、生き物や自然環境と取組が関連付けられ、より自身の行動化へのイメージづくりに役立っていた。



「浅川・多摩川までの
生き物探し体験（ガサガサ）」



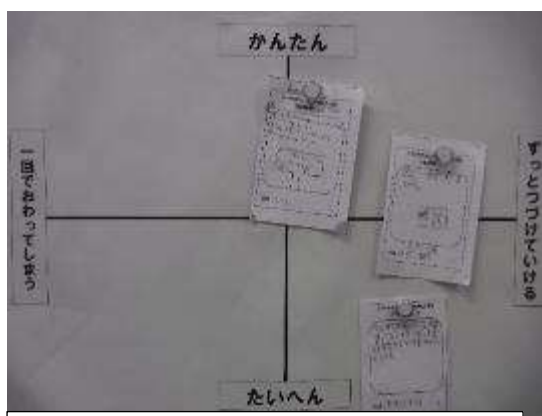
「市内一斉清掃」

(5) まとめ・表現【地域とのつながりの中で「行動化」を意識した活動に向けた思考ツールの活用】

「座標軸」を用いて、行動計画案の価値付けと改善に向けた話し合いを行った。座標軸に計画案カードを置く際に、なぜそこなのかを話し合うことで、案の価値に気付くとともに、どこを改善したらよりよくなるのかという観点を意識させることができた。また、大まかな視点として座標軸の右上に向けて改善すればよいという基準を共有したことで、話し合いの方向性を示すことにこの思考ツールは役立った。

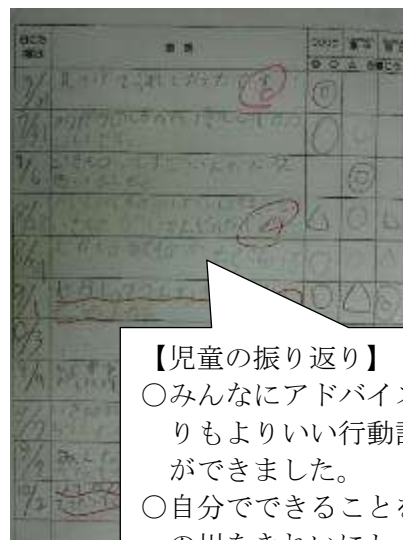


自身の行動計画を言語化し、話し合いの俎上に載せることで、より現実的で具体的な行動計画に修正することができた。



【思考ツールの活用】

話し合いで改善した行動計画案カード



【児童の振り返り】

- みんなにアドバイスをもらい、前回よりもよりいい行動計画案を考えることができました。
- 自分でできることを考えて、浅川とかの川をきれいにしようと思います。どんどん自然や生き物を増やしていきたいです。

(6) 今後の課題

- ・希少な生き物を調べ、考えることに大きな価値があるが、実際に見たり観察したりすることができないため実感の伴った理解や感動は難しかった。体験の少ない中で、自分事にしていくための工夫を更に考えたい。
- ・思考ツールは話し合いを方向付けたり、道筋を見えやすくしたりする効果はあるが、一方で思考を限定したり考え自体を方向付けたりしてしまうことがあった。活動や発問を吟味し、慎重に扱う必要がある。

